

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 第26回都道府県対抗ジュニアバスケットボール大会	期間 2013年 3月 27日(水)～ 3月 30日(土)
開催地 東京都 神奈川県 埼玉県 千葉県	会場 大田区総合体育館 他
参加者 工藤 由佳	所属地区名 帯広地区
講師 星河氏、平氏、関口氏、中川氏、福岡氏、田邊氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など 星河氏を講師に、A級審判員のグループで事前研修を行った。A級審判員として活動していくうえで、レフリーは品質管理者という自覚が必要だと学んだ。①どういうプレイがバスケットボールにとって上質なのかを見極めること、②ゲームを観にきてくれているお客さんのために質のいいゲームを提供すること、③スポーツが持つ潔さを感じられるようにすること、の3点を意識してコートに立つことが必要である。 また、スリーパーソンでの協力について講義があった。 ＜センター＞ボールエリアでないとき、つられて上がりすぎないように気をつけること。ボールが1～3番エリアにある場合は動かずに、最初のポジションにステイすることが基本。 ＜リード＞ドライブ、ペネトレイトへの対応。中へ引きずり込まれないようにすること。 ＜トレイル＞フリースローの時、センターライン付近まで行かず、3Pライン延長線上でリバウンドに備えること。オールコートプレスではミドルラインを意識し、センターが待っていてくれるという気持ち。 最後に、自分を過小評価しすぎないようにとのお話をいただいた。割り当てをもらうということは、認められてゲームを任されているということなので、謙虚すぎず自信を持ってゲームに臨むことが大切である。また、レフリーは「人を裁くのではなく、現象(起こったこと)を裁く」というお話もあり、自分のレフリーングに振り返って考えることができた。	
実技研修、座学研修等の記録 高校生男子のゲームでスリーパーソンの実技研修を行った。藤代氏(東京都)と比嘉氏(沖縄県)と吹かせていただいた。ゲーム中、判定よりも自分の動きのほうに精一杯で、スリーパーソンのメカニクスの理解を更に深め、経験を積んでいく必要があると改めて感じさせられた。ゲームの質という点で考えると、オフェンスに責任があるのにディフェンスのファウルにしてしまったケースがあった。 星河氏からの講評では、常にコートのプレイヤーから目を離さないようにすること、とアドバイスをいただいた。トレイルからリードに入るときに、コートから目を離して走っている場面が多くみられたということである。これはツーパーソンでも基本のことなので、すぐ修正していきたい。また、トレイルで、おへそを常にゴールに向けて動くとよいこと、質の悪いプレイに対しての危機感をもう少し持ったほうがよいとの講評をいただいた。	
実践実技1 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2013年 3月 28日 (木)	対戦カード 長野 vs 東京A (女子)
主審 工藤 由佳	相手審判 高知県 竹村 征洋 氏
ゲーム前のカンファレンス内容 ・質の悪いプレイを取り上げ(特に東京の手を使ったディフェンス)、両チームが気持ちよくプレイできるように。 ・プレスへの対応について、トレイルが3番エリアへも寄って見に行くこと。(ダブルチームなど) ・相手がどこを見ているか気にかけて、視野がかぶらないように。 ・自分のエリアを責任を持ってしっかり見る。 ・つねにアイコンタクトを取りながらすすめる。 ・ゲーム中も気になることがあればカンファレンスをして修正していくこと。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 茨城県 武藤 陽子 氏 ・お互いのチームが持っている力を十分発揮できたよいゲームだった。 ・トラベリングの整理がもう少しできるとよかった。 ・主審としてのゲーム管理。相手レフリーのエリアで起きたことについて、クレームが続いたときがあったので、主審としてなんらかの対応が必要だったのでは。(クレームが出そうなときには、ベンチ前でコーチの方を向き、それ以上言わせない等)	

## ゲーム感想

相手審判と協力して、1試合を吹き切ることができた。最終ゲームだったので、両チームのゲームを事前に見れたことで、カンファレンスも要点を絞って行うことができた。特に、悪い手の使いかたについてはゲームの入りから整理することができた。トラベリングについては、微妙なものを見極めはできたが、いくつかははっきりしたものを吹きもらしていたのが反省点(相手エリアだったとしても)。前日の講義でもあったように、プレイの質を判定することができたのは良かった。また、講評でもあったように、主審としてゲームを管理することが最大の課題であると感じた。しかし、全国大会の舞台で主審を務め、1ゲームを終えることができたので自分の自信につながった。

## 実践実技2

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2013年 3月 29日 (金)	対戦カード	愛知	vs	山形 (女子)
主審	工藤 由佳	相手審判	和歌山県	石川 裕子 氏

## ゲーム前のカンファレンス内容

- ・質の悪いプレイを取り上げ、両チームが気持ちよくプレイできるように。
- ・センタープレイヤーの見方。リードが右によるタイミング。ブロックショットの見極め。
- ・相手がどこを見ているか気につけ、視野がかぶらないように。
- ・自分のエリアを責任を持ってしっかり見る。
- ・つねにアイコンタクトを取りながらすすめる。
- ・ゲーム中も気になることがあればカンファレンスをして修正していくこと。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 講評 大分県 御手洗 亮 氏

- ・愛知のディフェンスの手の使い方、体の寄せ方でダメなものを整理できていなかった。
  - ・ブラインドからの判定、動きながらの判定があった。
- (大阪府 開 康寿 氏)
- ・1試合を任せ、ゲームを終えることができたのだから、過小評価せずにもっと自信を持つこと。
  - ・A級として、これからたくさん経験を積んでいってほしい。不測の事態が起きたときに動揺しているのが見えてしまう。

## ゲーム感想

愛知の質の悪いディフェンスを整理できなかった。自分の予測外の場所から手が出てきたり、ヘルプが来たり、スティールが起きたりと、対応しきれない部分があった。それを後半まで修正しきれなかったのが、特に反省すべき点だった。予測をしてスペースを捉えることが大切だが、ファウルの基準を自分の中でもっと明確にしなければならなかった。また、不測の事態が起きたときの対処を、スムーズに分かりやすく行う必要があった。

## まとめ

今回は、新規A級としての立場でジュニアオールスターに参加させていただきました。研修会、実技、ともに「上級」としてのレフェリングが求められ、引き締まる思いで4日間を過ごしました。しかし、全国の多くの方々から激励の言葉をいただき、これからの決意を確かなものにすることができました。

これまで主審としての経験が少なかったのですが、この全国大会で2ゲームを主審として担当させていただいたことで大きな自信となりました。特に、優勝した愛知県、ベスト4入りした東京Aの2チームのゲームを吹かさせていただいたことは、とても良い経験になりました。全国レベルのプレイに接し、予測してスペースを捉えることの大切さを改めて実感することができました。そして、主審としてゲームを管理するという今後の課題を明確にすることができました。今後、実力を備えていくために何よりも大切なのは、日頃の実践であると思います。1つ1つの笛の重みを感じ、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるよう、努力していきたいと思っております。

このような機会を与えていただいた皆様のご配慮に厚く感謝いたします。本当にありがとうございました。